

## 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

氏 名

CHAGAY Alena

論文題目

ウズベキスタンのコリョサラムの移住及びホスト社会における適応—ロシアと韓国における事例の比較研究—

論文審査担当者

主 査

名古屋大学 准教授 サヴェリエフ・イゴリ

委員 名古屋大学 教授 櫻井龍彦

委員 名古屋大学 教授 内田綾子

# 論文審査の結果の要旨

## 1. 本論文の構成と概要

本論文は、ウズベキスタンの少数民族の一つであるコリアン（コリョサラム）のポスト・ソビエト時代に国外移住し、ロシアと韓国という二つのホスト社会で適応していく過程について明らかにしたものである。

ウズベキスタン・コリアンに関する著書、論文等は近年、発表されるようになった。しかし、本論文は「人的資本」、「社会関係資本」、「クオリティオブライフ」という三つの重要な社会学理論を用いて、ポスト・ソビエト時代におけるウズベキスタン・コリアンのモビリティや、ロシアと韓国への適応過程の特徴を初めて検証した点に独自性がある。著者は、2010年11月にモスクワで、2011年9月にソウルでインタビュー調査を行い、そこで得られたデータをもとに、ホスト社会のロシアと韓国におけるウズベキスタン・コリアンの各ネットワークの形成、変容と特徴を実証的に明らかにし、その比較を行った。

本論文は序章、5章、終章をあわせて7章から構成されている。

第一章では、1937年の強制移住から現在までのコリョサラムの歴史的経緯が明らかにされている。第一節ではコリョサラムが朝鮮半島からウズベキスタンに定住するまでの歴史的経緯・過程について論述し、第二節ではポスト・ソビエト時代のウズベキスタンにおける社会・経済・政治的变化に促されたコリョサラム社会の変容と移住の動向について述べている。そして第三節では、本論文に関する先行研究を検証し、全体の理論的枠組みについて説明している。

第二章では、コリョサラムのウズベキスタンからロシアと韓国の首都圏への移住パターンの特徴や移住の原因が究明されている。とくにロシアと韓国への移住のプッシュ・プル要因がそれぞれ異なることを指摘し、両国の在外同胞に対する政策の役割について論じている。

第三章では、「人的資本」(human capital)の理論について説明した上で、まずソビエト時代におけるウズベキスタン・コリアンの人的資本の蓄積について考察している。そして、ホスト社会のロシアと韓国の首都圏への適応過程において、その人的資本がどのように活用され、機能したかについて論じている。その中で、ウズベキスタン・コリアンの人的資本は、ロシアと韓国のホスト社会において、それぞれ異なる役割を果たしてきたことが明らかにされている。

第四章では、P. Bourdieu, J. Coleman, R.D. Putnamなどが提唱した「社会関係資本」(social capital)という概念を用いて、ウズベキスタン・コリアンがロシアと韓国において形成したネットワークが彼らの重要な社会関係資本であることを示している。さらに、双方の「ネットワーク

## 論文審査の結果の要旨

の特徴」について論じ、その比較を行っている。同じ国に生まれ育った同じ民族であっても、移住先の社会制度などによって、ホスト国において蓄積される「社会関係資本」の形態の特徴とその活用が異なることを指摘した。具体的には、ロシアでは「開かれたネットワーク」、韓国では「閉じられたネットワーク」が形成されたことを明らかにしている。

次に第五章では、コリョサラムの出身国であるウズベキスタンと、ロシアと韓国という二つのホスト社会でのいわゆる「クオリティーオブライフ」やその向上過程の比較が行われている。ウズベキスタン・コリアンは、「クオリティーオブライフ」の向上を目指して出身国のウズベキスタンを離れ、韓国とロシアへ移住した。その二つのホスト社会において「クオリティーオブライフ」が如何に向上しているかを確認するために、著者は聞き取り調査を行い、日常生活に密着した「公共サービス」、「医療サービス」、「自分の経済状況や収入」、「職種」、「キャリアの可能性」、「安全性」、「安定感」、「子供の教育や社会活動の可能性」、「食生活」、「レジャー」という10の要素に対する満足度について分析を行った。その結果、出身国のウズベキスタンと比べ、ロシアへ移住したコリアンは「キャリアの可能性」と「子供の教育や社会活動の可能性」を高く評価している。一方、韓国では「職種」に対する満足度が最も低く、言語面の障害が存在しているため、技能に適した仕事に就くことや昇進が困難であることがわかった。しかし、著者は、韓国ではこうした社会移動の下降にも関わらず、ロシアと同様に移住者のホスト社会に対する総合的満足度が出身国より高いことを発見し、その現象が「心理的埋め合わせ作用」(“the compensatory psychological function”) で説明できることを明らかにした。

結論では、各章の小結論を総括した上で、本論文の中心をなす第四章と第五章で分析したロシアと韓国におけるコリョサラムのネットワークの共通点と相違点を確認している。ホスト社会におけるコリョサラムの人的資本、社会関係資本、クオリティーオブライフの相互関係やその変化を図式化し、人的資本、社会関係資本の活用とクオリティーオブライフの向上との関係を明らかにした。

### 2. 本論文の評価

本論文の貢献として以下のような点が認められた。

(1) 第一には、本論文は聞き取り調査で得られた豊富なデータに基づいて、ウズベキスタン・コリアン（コリョサラム）の最新の移住パターンと特徴を研究対象にし、そのホスト社会への適応過程を初めて人的資本、社会関係資本、クオリティーオブライフという視点から分析した。これによってウズベキスタン・コリアンの現在に新しい光を当て、コリアン・ディアスポラの研究

## 論文審査の結果の要旨

に貢献している。

(2) 第二に、本論文では、ウズベキスタン・コリアンのロシアと韓国への移住を比較し、同じ民族集団でありながらも、ウズベキスタン・コリアンのそれぞれのホスト社会（ロシアと韓国）で異なる形態の人的資本、社会関係資本を蓄積し、活用していることが示された。

(3) 第三に、本論文はウズベキスタン・コリアンがロシアと韓国でのネットワークを如何に形成したかを明らかにし、いわゆるネットワーク型コミュニティの理論にも貢献している。

(4) 第四には、ロシアと韓国で形成されたウズベキスタン・コリアンのネットワークの性質が異なることから、ロシアへの移住がポストコロニアルな移住の性格を持ち、韓国への移住が出稼ぎ型である点を明らかにしたことである。

(5) 第五には、韓国で社会移動が下降するにもかかわらず、移住者がホスト社会に対して総合的に満足している現象を「心理的埋め合わせ作用」(“the compensatory psychological function”)によって説明できると指摘したことである。

一方で、将来の研究に向けて以下のような改善点も指摘された。

(1) 本論文の主要な研究対象であるウズベキスタン・コリアンの国際移住とホスト社会への適応は、社会学などの分野で用いられる人的資本・社会関係資本の理論によって十分に説明できない面もある。今後は、ウズベキスタン・コリアンの国際移住の研究において、近年発展している新しい理論も検討すべきではないかという指摘が審査員からあった。しかし、これらの指摘は、今後研究をいっそう発展させるための課題であり、本論文は博士論文として十分に評価できるものである。

### 3. 結論

以上の評価により、審査委員会は本論文が博士（学術）の学位に値するものであると判断し、論文審査の結果を「可」と判定した。